

ハッピー/タイアメント講座 ⑫

これから定年を迎える方、子育てが一段落した方、地域で何か活動したい方々に地域社会に一步踏み出すキッカケを提供します。

- 日 時/平成25年3月15日(金)
13:30~16:00(13:00開場)
- 会 場/稲城市地域振興プラザ4F
- 参加費/無 料
- 共 催/NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ
稲城市社会福祉協議会、稲城市協働推進課

地域があなたを待っている

プログラム

第1部 ハッピー座談会(活動体験談と座談会)

- ◎田淵昌男さん/みどり(老人)クラブゆうわ会会長、その他防犯パトロール、美化運動、ちぎり絵会などの地域活動にも関わっています。
 - ◎安東道正さん/稲城陶芸教室、定年後に陶芸教室を開設、地域の方と一緒に楽しんでいます。
 - ◎和田さつきさん/NPO法人里山ゆうゆう倶楽部南ちゃんの会代表、里山保全活動を行っています。
 - ◎平川芳則さん/ハンディキャブ運転協力員、パソコン楽らくクラブ、支え合う会みのり会員、その他地域の様々なボランティア活動にも参加しています。
- 4名の方の話の後、コーディネーターを交えての座談会を行います。

第2部 トークカフェ

各グループ4~5名で、テーマを変えて3回程度。地域でいろいろと活動されている方とも知り合いになれば、地域活動の第一歩になることを期待しています。

第3部 地域内の活動紹介

第1部に関連する団体の他、社会福祉協議会、はつらつワーク、市民活動サポートセンターいなぎ、その他会員を募集している団体など。

【問合せ・申込み】

市民活動サポートセンター(協働推進課内) 042-378-2112

◆「いなぎ市民活動フォーラム2012」の報告

人と人が出会う

まちの縁側づくり

ヒト・コト・モノがゆるやかに
行き交う場「まちの縁側」をテーマに昨年12月15日に「いなぎ
市民活動フォーラム2012」が
行われました。

●第1部：10分間トーク

1部では市内で「まちの縁側
づくり」の取り組みをしている
5団体（個人）の方に10分間
ずつ報告していただきました。



1番手は、
シンガーソング
ライターの
花枝聖さん、
いきなり歌と
ギターでの発
表に会場は大盛り上がり。



花枝さんは昨年5月に、「稲
城を音楽のまちにしたい」と、
京王よみうりランド駅近くに
「green world cafe」をオー
プンさせた若者です。



恵子さんでした。

里山の保全活動をしている団
体です。里山の頂上に開けた場
所を作り「桜の広場」と名づけ
ました。そこを地域の縁側とし
て森の中の写真展、絵画展、ミ
ニコンサート等を開き地域の方

2番手は、
NPO法人里
山ゆうゆう倶
楽部 南ちゃん
の会の副理
事長、木村智

と一緒に楽しんでいます。

3番手は、
前号のニュー
スレターで紹介した「たなか
カフェ」の田
中明子さん、



自宅を子育て世代に開放しつ
つ、多様な世代の交流を実現し
ています。その思いをたっぶり
話してくれました。



池田寛さん、主に坂浜・長峰・
若葉台の子どもや大人の交流の
場・居場所・縁側・遊びの場
になることを目指し、年間を通
した様々な取り組みについて報告
してくれました。

5番手は、
ふれあいセン
ター向陽台代
表の北川知可
子さん。誰で
も気軽に立ち

4番手は上
谷戸緑地体験
学習館の指定
管理者であり
坂浜の自治会
会長でもある



寄れる地域交流の場として社会
福祉協議会が後押しして市内各
地で展開しているのが、ふれあ

いセンター、今回はその事例と
して、向陽台での取り組みにつ
いて報告してくれました。

●第2部：基調講演

～ひとりから始める縁側から
多様な縁側探しの取り組み～

まちの縁側育みプロジェクト
ながの世話人、小林博明さんを
講師としてお招きし、長野市で
の取り組みについてスライド入り
でお話ししていただきました。



長野市では、ボランティアセ
ンターが中心となり、市内に
5,000か所の縁側づくり
(探し)を目指しているそうで
す。そして、すでに登録されて
いる縁側は1,000か所を超
えるというから驚きです。

話をお聞きして、なるほどと
気づかされるのが沢山あり、
私たちがこれからこうした取り
組みを進めて行く上でとても参
考になりました。

例えば長野では、ヒト・モ
ノ・コトがゆるやかに行き交う
場を「まちの縁側」と定義して
探してみたら、まちの中に、す
でに「縁側」が沢山あることに
気付いたということです。商店
(街)にも、個人の家にも、公

共の場にも、鎮守の森にも・・
ですから、意識して無理に作る
というのではなく、探すことに
力点を置いているという話にと
ても納得しました。



探すことに力点を置いてみる
と、福祉や環境、商業・農業振
興といった垣根を越えた多様な
縁側が見つかります。しかも、
地域をキーワードにして、ゆる
やかに繋がりが合うことが大事だ
ということでした。



もう一つ感心したことは、縁
側を発見してそれで終わりでは
なく、それまで点



であった縁側を、
線としてつなぐた
めの様々な試みや
「これなら私にもできる」「私も参加し
てみたい」「何だか面白そう」
「あつたらいいなア～」といっ
た個人の思いを後押しする様々
な情報を発信していることで
す。そのことが新しい縁側を生
み出す原動力になっているんだ
なあ～と感じました。

例えばそれは、①縁側事例集
(ノウハウ集)づくり、②縁側
マップづくり、③まちの縁側太
鼓判(推奨事業)、看板設置、
④まちの縁側づくり実践講座の
開催などです。

第3部：トークカフェ

今回は「稲城でいい映画を観
よう！梨映会」でいつもトーク
カフェの司会を担当している白
石たかねさんにファシリテータ
ーをお願いしました。



開始前にまず白石さんから、
トークカフェのエチケットにつ
いて説明がありました。

○人の話を良く聴きましょう
○否定のアドバイスはしない
○今この自分が思ったことを話
そう

○時間は公平に使いましょう



時間がたっぷりある時は、1
グループ5～6人に分かれて、
数ラウンドの話し合いを行うの
ですが、今回はあまり時間がな
かったので、2ラウンドだけ、
しかも1グループ4人で行いま
した。

最初は皆さん少し戸惑ってい
たようですが、直ぐに会話が弾
んで、参加者からは「時間が短
かった」という感想が寄せられ
たほどです。

それでも、ラウンドごとに参
加者が入れ代わるというやり方
なので、多くの方と意見や知識
を共有することができ、中身の
濃い、楽しい話し合いができま
した。

次回は、もつと時間をたっ
ぷり取って、心行くまで話し合
ってみたいなあ～と思いました。

また参加者からは「参加して

トークカフェって？

一般的にはワールド・
カフェとされています。

それは、「知識や知恵は、
機能的な会議室の中で生
まれるのではなく、人々
がオープンに会話をを行い、
自由にネットワークを築
くことのできる「カフェ」
のような空間でこそ創発
される」という考え方に
基づいて行われる話し合
いの手法のことなのです。

「決めない会議」とも言
われますが、何かを決定
する機能よりも、様々な
事象や考え方を共有し、
相互理解を生み出す機能
を大事にした手法です。



よかった。これからの活動に元
気をもらった。安心して暮らせ、
つながる稲城へ・・・」といっ
た心強いメッセージが沢山寄せ
られました。

まちの縁側探しを 一緒にしませんか

「縁側探し発見隊」づく
りを考えています。興味のある方はサポートセンター
までご連絡を・・・。

**私のだいじな場所
～公共施設の市民運営
を考える～**

公共の施設について皆さんはどのようなイメージをお持ちですか。講師の西川さんは、市民の皆さんが「私のだいじな場所」と思えることが大切だと考えています。それはどうしてでしょうか？そのためにはどうしたらいいのでしょうか？

今回はそんな視点から稲城のこれからについて考えてみたいと思います。

なお後半では自由な意見交換会を予定しています。

- ◆日時／3月7日（木）
13：30～16：30
- ◆会場／地域振興プラザ4階
- ◆講師／西川正氏
(NPO法人ハンスオン埼玉常務理事)
- ◆定員／40名
- ◆参加費／300円

◆申込み・問合せ先／市民活動サポートセンター(協働推進課内)

電話：042-378-2112

- ◆申込期限／3月1日（金）
- ※期限が過ぎても余裕があれば申し込みますのでお問い合わせください。
- ※NPO法人市民活動サポートセンターの会員（個人・団体）は無料です。会員団体の場合は何名でも無料で参加できますので、会員の研修の機会としてご活用ください。

臨時総会

ぼうさく

1月12日に「NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ」の臨時総会が開かれました。私たち法人は、稲城市



▲終了後握手を交わす市長と理事長

地域振興プラザの管理運営を指定管理者として受諾すべ

く、市と協議を重ねてきました。

その協議がやっと整い、議会の承認も得たので、今回の臨時総会は、法人として指定管理者を受諾する議案とそれに必要な定款の一部改正が議題でした。

2つの議案とも全員一致で承認されたので、本年4月からは、私たち法人が地域振興プラザの管理運営を行う予定です。

不慣れなため当分の間は利用者の皆さんにご迷惑をおかけす

ることあるかと思いますが、よろしくご指導・ご協力をお願いいたします。

午後7～9時

金曜サロンスペシャル

■3月1日（金）

- ・話し手：安達 恒三さん
(稲城第五中学校校長)
- ・演題：「緊急時に生かせ、中学生/ワー」

もし平日の昼間に災害が発生したら・・・一家の担い手である父親は仕事で不在、3年生だけの力でどれだけのことができるのか？

厳しい想定のもとに臨んだ昨年11月の防災訓練とその後の学校での取り組みについて語っていただきます。

編集後記

1月の大雪にはびっくり、日陰はいつまでも凍つていて大変だった。が、新成人には一生忘れられない日になった。そして、2月は受験生にとつて勝負の時、新しく進路が決定する。実は、サポートセンターも4月から新スタート。当然法人が地域振興プラザの指定管理者となる。市内の市民活動団体の核となり、協働のまちづくりが進みますように。各分野の団体の力と関心ある市民の力に期待したい。(廣田)

NPO法人「市民活動サポートセンターいなぎ」の会員を募集しています・・・年会費3,000円